



株式会社フコク(東証プライム:5185)
2023年11月17日

第2四半期決算説明会 2024年3月期

70th ANNIVERSARY **Yes, We Do!**

Copyright © Fukoku Co., Ltd.
All Rights Reserved.

本日はお忙しい中、株式会社フコク 2024年3月期の中間決算説明会をご視聴戴き、誠にありがとうございます。

本日の説明をさせていただきます株式会社フコク 社長の大城でございます。

最初にフコク製品をご愛顧戴いている全てのお客様、株主の皆様、私達の企業活動を支えて戴いている全ての関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

説明の順番ですが、資料に基づき説明した後、皆様からのご質問にお答えいたします。ご質問はチャットにて受け付けますので、ご質問のある方は画面右側より入力をお願いします。

それでは、始めさせていただきます。

1. 決算のポイント
2. 2024年3月期第2四半期実績
3. 2024年3月期通期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. 新中期経営計画2026の進捗状況

本日は、御覧の通り、
決算のポイントを簡単にご説明した後、
2024年3月期の上期実績、通期業績予想、セグメント・地域別の状況、株主還元、新中期経営計画の進捗状況の順番にてご説明させていただきます。

1. 決算のポイント

はじめに決算のポイントですが、

1. 決算のポイント

4/24

2024年3月期第2四半期実績

売上高は、中国における景気低迷等の影響を受けるも、日本、アセアン・インドの売上伸長により **増収**

営業利益は、資源価格高騰による原材料費上昇等の影響や、CASE対応向け技術開発費用やDX投資がかさんだものの、合理化や変動対応等により **増益**

2024年3月期通期予想

不安定な海外情勢の継続、世界的な為替の変動、資源価格高騰等による物価上昇の傾向が続くことを想定

生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により収益力の最大化を図る

売上高 880億円 **営業利益** 39億円 の公表値を据え置く

配当

中間配当は、当初計画通り27.5円

期末配当は、当初計画27.5円を据え置きし、通期で55円を計画

第2四半期の売上高は、中国における景気低迷等の影響を受けましたが、日本やアセアン・インドの売上が伸長したことで増収となりました。

また、営業利益は、資源価格高騰による原材料費上昇の影響や、CASE対応向け技術開発費用やDX投資がかさんだものの、合理化や変動対応により増益となりました。

これらを受けまして今期の通期予想につきましては、不安定な海外情勢の継続、世界的な為替の変動、物価上昇等の傾向が続くものと予想されますが、生産工程の合理化や原材料価格の変動対応、採算改善努力を継続することで、売上高880億円、営業利益39億円の公表値は据え置きとします。

中間配当に関しましては、当初計画通り27.5円といたしました。期末配当予想は、外部環境が不透明な状況ではありますが、当初計画27.5円を据え置きとし、通期では55円を計画しております。

2. 2024年3月期第2四半期実績

次に2024年3月期 上期の実績を報告いたします。

2. 2024年3月期第2四半期実績

業績概要

(単位：百万円)

	2023年 3月期	2024年 3月期	前年増減額	前年増減率
	第2四半期 実績	第2四半期 実績		
売上高	38,971	42,950	+3,979	10.2%
営業利益 (売上高対営業利益率)	817 (2.1%)	1,059 (2.5%)	+242 (+0.4pp)	29.6%
経常利益 (売上高対経常利益率)	1,811 (4.6%)	1,390 (3.2%)	-421 (-1.4pp)	-23.2%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,470 (3.8%)	1,047 (2.4%)	-423 (-1.4pp)	-28.7%

※pp=パーセンテージポイント

2024年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2023年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2024年3月期 上期の実績は、
売上高は前年同期比10.2%増の429億5千万円となりました。

営業利益は、前年同期比29.6%増の10億5千9百万円となりました。

経常利益は、前年同期比23.2%減の13億9千万円となりました。
これは、前年同期にて子会社が所有する固定資産の売却益が、一過性の収益として発生したことによります。

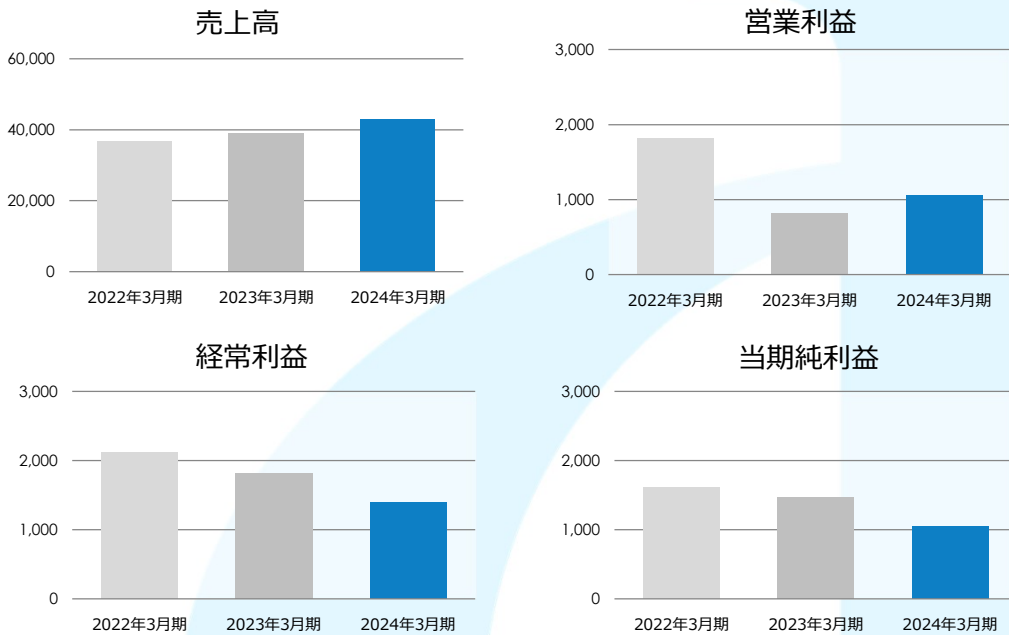
また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比28.7%減の10億4千7百万円となりました。
こちらも、前年同期に当社の退職給付制度変更により、一過性の収益が発生したことによるものです。

なお、これらの一過性の収益を除いて比較しますと、経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益は、共に前年同期を上回っております。

2. 2024年3月期第2四半期実績

経営実績推移（上期）

（単位：百万円）



2024年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2023年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去3年間の上期の実績を示したものです。

売上高は、右肩上がりで推移しており、3期連続の増収となっております。

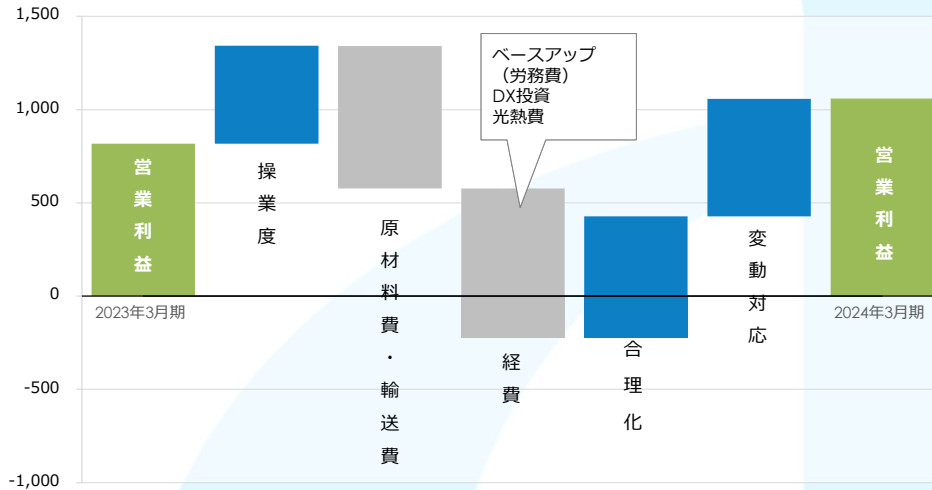
営業利益は、次のページで詳細をご説明いたしますが、原材料費上昇の影響を合理化や変動対応により吸収し、増益となりました。

経常利益・当期純利益につきましては、先ほどご説明した通り、一過性の利益影響を除くと、どちらも増益となっております。

2. 2024年3月期第2四半期実績

差異要因 営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2024年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2023年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは対前年比 連結営業利益増減を要因別に示したものです。

マイナス要因としては、資源価格高騰による物価上昇の影響を受けて、原材料費・輸送費、経費等でマイナス15億円となりました。

経費の内訳といたしましては、光熱費の増加、戦略的なベースアップによる労務費の増加、生産性向上と業務効率化を目的としたDX投資等の諸経費の増加の、合計8億円となっております。

一方、プラス要因としては、操業度による増益、合理化、変動対応で18億円を挽回し、前年同期ベースで増益を達成しております。

なお、合理化案件や変動対応につきましては、全社的な経営課題としてその取り組み度合いをこの上期に強化しており、下期にかけて、さらに、その効果を出してまいります。

2. 2024年3月期第2四半期実績

財政状態、キャッシュ・フロー概要

(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2023年9月期 実績	前年増減額
現金及び預金	9,972	11,314	1,342
受取債権	19,731	20,791	1,059
棚卸資産	11,054	11,119	65
その他流動資産	1,770	1,694	△ 75
流動資産計	42,528	44,920	2,391
有形固定資産	25,896	26,505	608
その他固定資産	3,105	3,434	328
固定資産計	29,001	29,939	937
資産計	71,530	74,859	3,329
借入金	12,979	12,989	9
支払債務	11,342	11,940	597
その他流動固定負債	9,255	9,508	252
負債計	33,577	34,437	859
株主資本計	32,534	33,220	685
非支配持分	2,333	2,377	43
その他	3,084	4,824	1,739
純資産計	37,952	40,421	2,469
負債・純資産計	71,530	74,859	3,329

	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績
税前利益	2,358	1,390
減価償却費	2,131	2,208
売上債権の増(△)減(+)	△ 629	△ 282
棚卸資産の増(△)減(+)	△ 599	439
仕入債務の増(+)減(△)	233	△ 27
その他	△ 2,482	△ 32
営業活動によるC F	1,011	3,695
有形固定資産の取得	△ 1,976	△ 1,808
その他	32	△ 206
投資活動によるC F	△ 1,943	△ 2,014
借入れによる収入	2,915	1,159
借入金の返済による支出	△ 1,144	△ 1,570
その他	△ 375	△ 448
財務活動によるC F	1,395	△ 860
フリー・キャッシュ・フロー	△ 932	1,680

- 海外子会社決算の為替換算の影響によりBS全体が増加

- 前年同期は退職給付制度変更に伴う支払のため、フリー・キャッシュ・フローは一時的に悪化したか、当期は改善傾向
- 借入金の返済も順調に進み、借入金収入より返済が上回る

財務体質の状況をバランスシートとキャッシュフローで見ると、ご覧の通りとなります。

バランスシートは、
海外子会社決算の為替換算の影響によりBS全体が増加しております。

また、キャッシュフローは、
前年同期は退職給付制度変更に伴う支払のため、フリー・キャッシュ・フローは一時的に悪化いたしましたか、当期は改善傾向にあり、借入金の返済も順調に進みました。

3. 2024年3月期通期業績予想

続きましてここからは、
2024年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。

3. 2024年3月期通期業績予想

業績予想

(単位：百万円)

	2023年 3月期	2024年 3月期	前年増減額	前年増減率
	実績	予想		
売上高	82,318	88,000	+5,682	+6.9%
営業利益 (売上高対営業利益率)	2,010 (2.4%)	3,900 (4.4%)	+1,890 (+2.0pp)	+94.0%
経常利益 (売上高対経常利益率)	3,139 (3.8%)	4,000 (4.5%)	+861 (+0.7pp)	+27.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,135 (2.5%)	2,900 (3.2%)	+765 (+0.8pp)	+35.8%

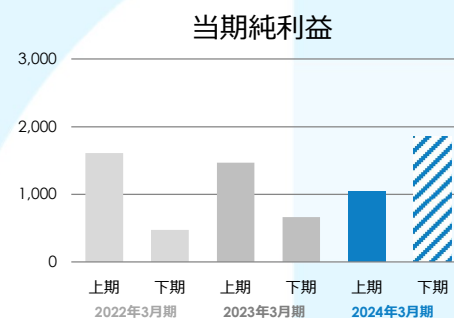
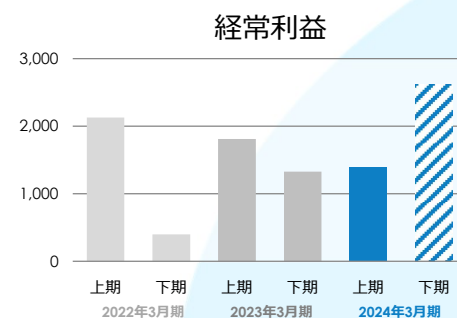
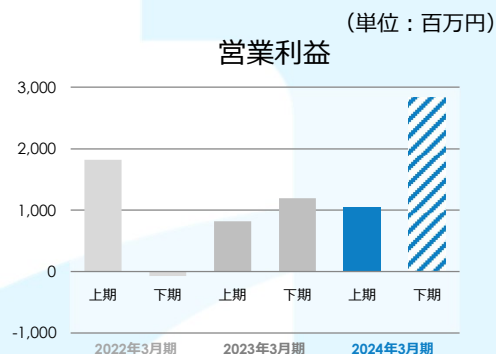
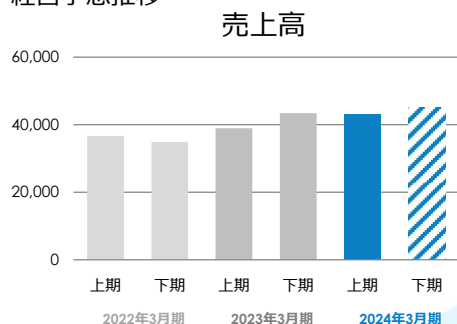
※pp=パーセンテージポイント

当期の通期予想は、売上高880億円、営業利益39億円、経常利益40億円、当期純利益29億円と期初計画を据え置きます。

外部環境は依然として不透明感が続くものと予想しますが、外部要因の変化に伴う諸経費増を合理化や変動対応で吸収する等、スピード感を持って取組むことで、収益改善を実現してまいります。

3. 2024年3月期通期業績予想

経営予想推移



2024年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2023年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

これは、過去3年間の業績を半期毎の推移で示したものです。

今年度下期の売上高は自動車メーカーの生産復調等により、増収を見込んでおります。

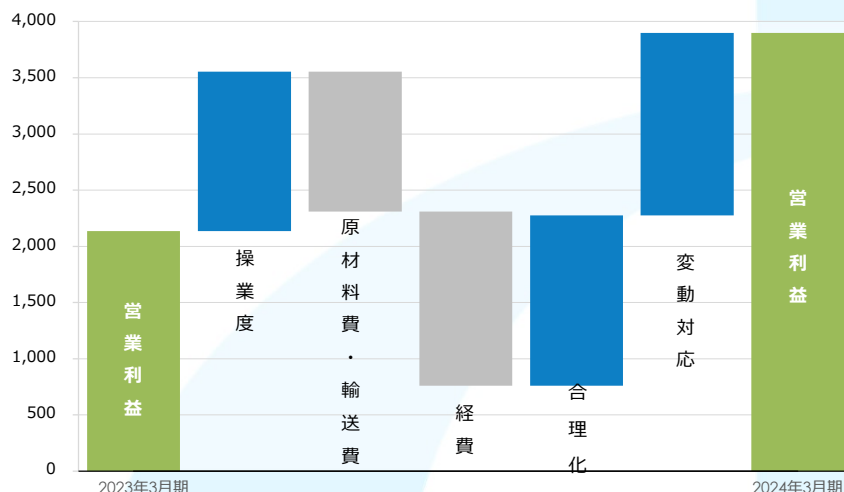
また、合理化の改善努力や変動対応への取組み効果が更に出て来ることで、全ての利益段階におきまして、増益を計画しております。

なお、営業利益 増益の詳細につきましては、次のページで説明いたします。

3. 2024年3月期通期業績予想

差異要因 営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2024年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2023年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、対前年比通期連結営業利益の増減を要因別に示したものです。

マイナス要因として、
原材料費や経費の増加影響が引き続き残るものと予想されます。

その一方で、プラス要因として3点あげられます。

1点目は、操業度益の増加です。
これは、自動車メーカーの生産復調により当社の受注が好転するものによります。

2点目は、合理化案件です。
上期に種まきをした生産ラインのレイアウト変更や歩留まり向上、また、生産性向上と業務効率化を目的としたDX投資の合理化が収益に更に寄与してくること。

3点目は、変動対応です。
グループ全体で取組みを進めてきた各種変動対応が、年間ベースで収益貢献してきます。

これら3点のプラス要因により、
通期の営業利益は、期初計画通り、39億円を達成してまいります。

4. セグメント別・地域別の状況

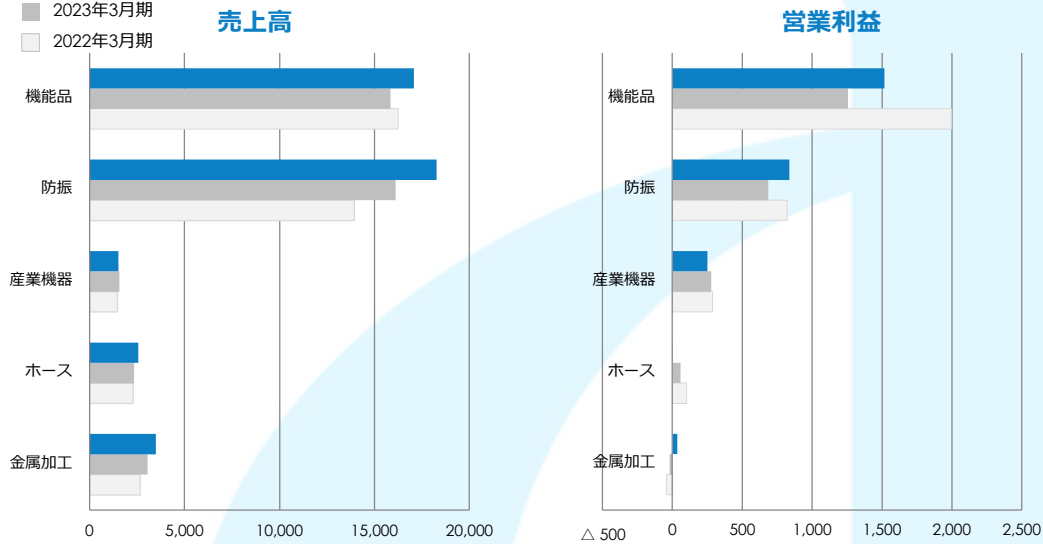
次は、セグメント別・地域別の状況についてご説明いたします。

4. セグメント別・地域別の状況

セグメント別（上期）

- 2024年3月期
- 2023年3月期
- 2022年3月期

（単位：百万円）
※ 連結調整考慮前

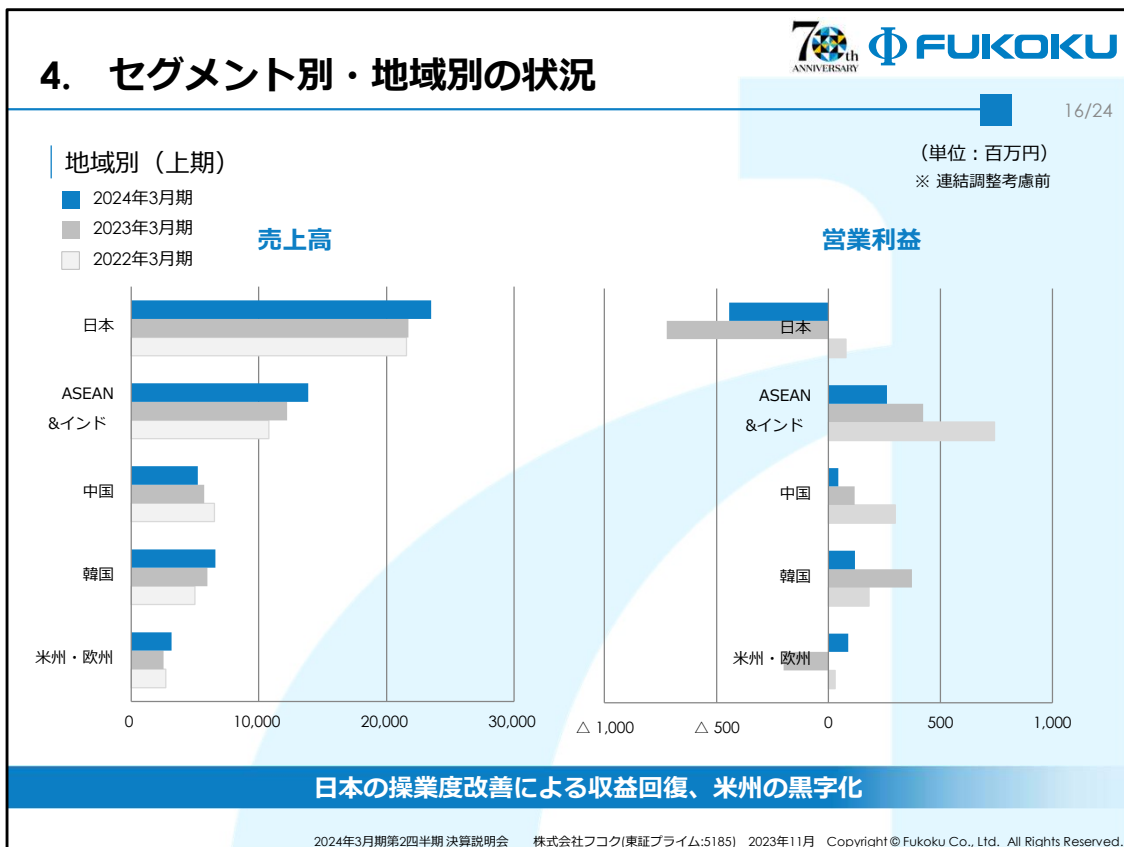


全てのセグメントにおいて営業利益の黒字化を実現

まず、セグメント別の状況です。

グラフは、2022年3月期から2024年3月期までの推移がわかるように示しています。上から順に、機能品・防振・産業機器・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。

2024年3月期上期は、全てのセグメントで営業利益黒字化を実現いたしました。



次は、地域別の状況です。セグメント状況と同様に年度ごとの推移で示しています。

日本につきましては、自動車メーカーの復調に伴い、受注が好調に推移しました。歩留まり向上などの合理化、生産ラインの最適化などの改善努力や、変動対応が功を奏し、前年同期と比較して収益力が改善しております。下期は、上期に種まきをした合理化活動の刈り取りと、変動対応活動を進めることで、更なる利益向上を進めてまいります。

アセアン・インドにつきましては、上期は、為替による収益性低下、中国向け製品の需要低迷、光熱費、原材料高騰の影響を受けましたが、下期は、受注の回復、変動対応努力、歩留まり向上などの合理化活動が収益に寄与してまいります。

中国は、グローバルでの最適地生産や、省人化、歩留まり向上などの合理化対策を進めてまいりましたが、中国経済の低迷や、中国市場における日系自動車メーカーの需要伸び悩みの影響を受けて、売上・利益ともに前年を下回りました。下期は、引き続き、省人化、合理化努力、中国ローカルメーカーへの拡販を進めることで、需要低迷の影響を最小限に留めてまいります。

韓国は、米国向けの需要が好調であったこと、また為替の影響を受けて増収となりました。

一方で、CASE関連の開発費用や生産設備投資の増加があり、収益的には上期減益となりましたが、当社の代表的なCASE対応製品であるGap fillerの開発推進や、後ほどご説明しますPRA等のEV関連製品の拡販を通じて、利益確保を進めてまいります。

米州・欧州については、2023年3月期にチェコ拠点を閉鎖したことに加え、

米国における国内需要が好調に推移したほか、グローバル最適地生産や合理化による
改善努力などを進めたことで、増収増益となりました。

5. 株主還元

次に、株主還元についてご説明いたします。

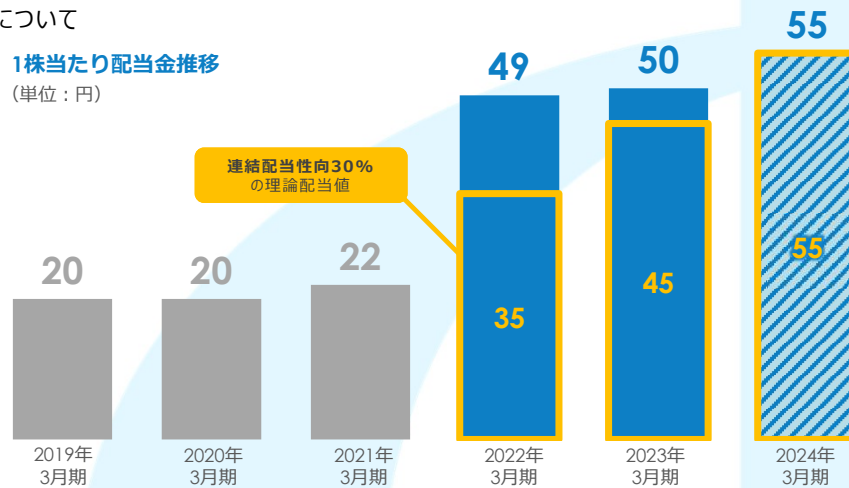
5. 株主還元

配当政策の基本方針

- **連結配当性向30%** を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限 ※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

配当金について

1株当たり配当金推移 (単位：円)



2024年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2023年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、既に中期経営計画にて発表しておりますが、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針と考えております。

これに基づき2024年3月期の中間配当は当初の計画通り27.5円と致しました。

2024年3月期の期末配当は、原材料や資源価格高騰による物価上昇の懸念もありますが、計画通りの27.5円、通期で55円配当を計画しております。

6. 新中期経営計画2026の進捗状況

最後に、
今年6月に公表いたしました新中期経営計画の進捗状況についてご説明をさせていただきます。

6. 新中期経営計画2026の進捗状況

既存事業
の強化

ソリューションビジネスによる拡販

中国での新規ワイパーの顧客の獲得

- 上海テクニカルセンターでワイパーの製品性能評価を実施
- 評価日程の短縮による顧客満足度の向上に貢献



上海テクニカルセンター

インドR&D機能設置

- 防振製品の解析・評価を行うR&D機能をインドに設置準備中
- お客様の困りごとにスピード感を持って対応顧客満足度の向上を図る



フコクインドシア (ブネ工場)

本日は、新中期経営計画で掲げた事業戦略の両輪である「既存事業の強化」と「成長事業・新事業の拡大」の取組み進捗について、ご説明いたします。

まず初めに「既存事業の強化」では、ソリューションビジネスによる拡販について、2点ご説明いたします。

1点目は、中国における新規ワイパーの顧客獲得です。
上海テクニカルセンターでワイパーの製品性能評価を実施し、評価日程の短縮を実現しております。
引き続き、顧客満足度の向上に貢献しながら、受注の拡大につなげてまいります。

2点目は、インドR&D機能設置です。
防振製品の解析・評価を行うR&D機能の設置を、計画通り推進しております。
インドでは、引続き好調に推移する内燃機関に加え、EV化も加速すると予測しています。

そうしたことから、お客様の困りごとにスピード感を持って対応し、顧客満足度の向上を図ることで、受注の拡大につなげてまいります。

6. 新中期経営計画2026の進捗状況

成長事業・
新事業の拡大

CASE市場への拡大

EVバッテリー周辺製品「PRA」の量産開始

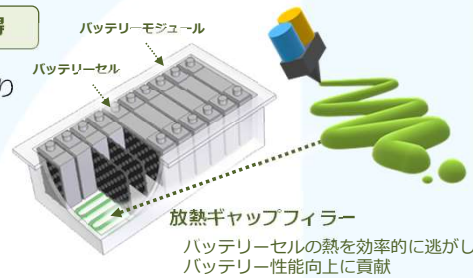
- 韓国で量産を開始
- EVバッテリー周辺製品を中心としてCASE関連製品のさらなる拡大を図る



PRA (POWER RELAY ASSY)
EVバッテリーから供給された電源を分岐し、車両への電力配分と監視・制御機能を担う

放熱ギャップフィラーの受注獲得

- 海外の自動車メーカー様より受注を獲得
- 来年度の量産開始に向け量産体制を準備中



放熱ギャップフィラー
バッテリーセルの熱を効率的に逃がし、バッテリー性能向上に貢献

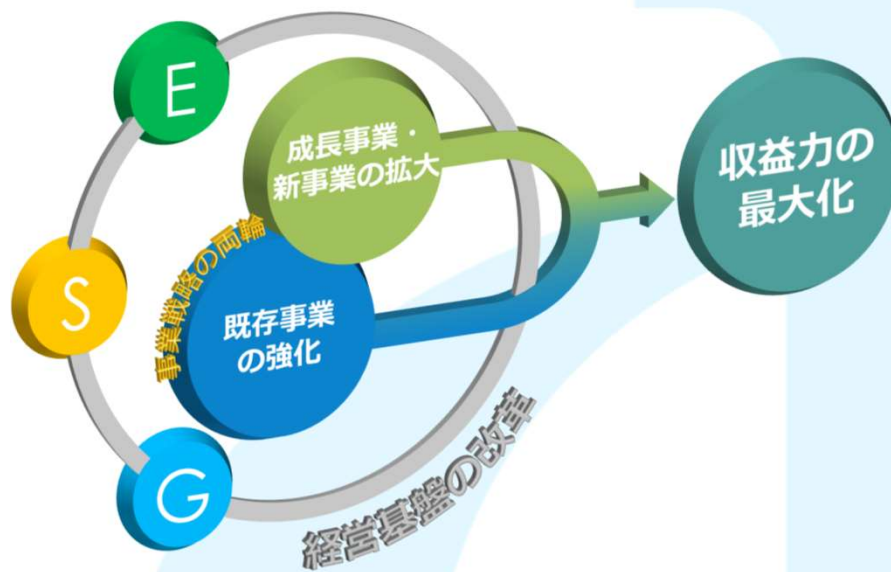
続きまして「成長事業・新事業の拡大」では、CASE市場への拡大について2点ご説明いたします。

1点目は、EVバッテリー周辺製品「PRA」の量産開始です。PRAは、EVバッテリーから供給された電源を分岐し、車両への電力配分と監視・制御機能を担う製品です。今年度より、韓国にて量産を開始しております。

2点目は、放熱ギャップフィラーの受注獲得です。この放熱材は、バッテリーセルの熱を効率的に逃がすもので、バッテリー性能向上に貢献するものです。従来品よりも低密度で軽量化、塗布加工性にも優れているため、お客様のコスト低減に大きく貢献するものと確信しております。現在は、海外の自動車メーカー様より受注を獲得し、量産に向けての準備が進行中です。

今後、市場が拡大していくEVバッテリー周辺製品を中心としてCASE関連製品のさらなる拡大を行ってまいります。

6. 新中期経営計画2026の進捗状況



2024年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2023年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

以上の様に、
今後も既存の主力事業である自動車産業のさらなる強化に加えて、
成長事業・新事業の拡大に挑戦し、これら両輪をベースに収益力最大化を目指して
いきます。



最後になりますが、
フコクは、常に挑戦を続け、時代の変化に柔軟に対応し、
サステナブルな社会の実現に貢献できる「心から愛される企業」を目指します。

以上で、本日のご説明を終了させていただきます。
本日は誠にありがとうございました。